

～思いやりのつえ～

厳かな雰囲気の中、美九里東小学校の5、6年生は慰霊のつえにメッセージを書き込みます。「頑張って山登りをして亡くなった人へ思いを伝えてください」。このつえは、日航ジャンボ機が墜落した御巢鷹山に遺族らが慰霊登山をする時に使われるもので、子どもたちはこの活動を通して「思いやりの心」を育てます。



↑つえを作ってくれた本多さんが見守る中、使ってくれる人のことを一生懸命考えながらメッセージを書き込みます。

思いやりの心

子どもたちは道徳の授業で事故について事前に学び、突然大切な家族を失った遺族の悲しい気持ちや亡くなった人たちの思いなどを考えます。そしてメッセージをしたためることで人の思いに寄り

添う気持ちを育てます。

つえは不慮の事故で車いす生活を余儀なくされながらも意欲的にボランティア活動に取り組む本多さんから毎年届けられます。とかく自分本位で物事を考えてしまいがちな年頃の子も、「困っている人がいると何とかしてあげたい」と喜んでもらえるとうれしい」と語る本多さんの生き方、考え方を学ぶことで人の役に立とうとする気持ちを育てます。

人のことを考えて行動できるようになった子どもたちは、これからも「思いやりの心」を育て、社会の中で人のためにできることを探します。



Name 齋藤ほのかさん 澤入春斗さん 柳原母さん 鈴木来夢さん

「基本的人権の尊重」
憲法の三大原則の一つ。
守られるべきものですが
いまだに人権侵害が無くなりません。
一人ひとりの人権を守っていくために
私たちにできることは何でしょうか。

基本的人権の尊重

人権とは私たちが生まれながらに持っており、誰にとっても身近でとても大切なものです。しかし、差別や偏見、固定概念などに基づく多くの人権侵害が現実の社会では起きています。女性だから、子どもだから、障害があるから、同和地区出身だからなどという理由で偏見を持たれたり差別を受けたたりすることがあります。人権は性別や環境に違いがあっても、認め合う心によって守られていくものです。

身近にある人権問題

先月お知らせした人権アンケートの結果では、人権侵害を受けた経験において「子どもへのいじめ・虐待」と回答した人の割合が最も高いものでした。子どもに対する人権侵害で多くみられるものは保護者による暴力、ネグレクト(育児放棄)などの身体的な虐待行為です。さらに近年では子どもの目の前で配偶者など

への暴力を見せる面前DVなどの心理的な虐待も多くなってきました。虐待行為は子どもの心身の深刻な影響を与え、心身の健全な発達の妨げとなります。またその影響は将来にわたって心配されます。

「インターネットによる人権」への関心度は増加傾向にあります。インターネットは今や私たちの生活に欠かせないほど身近になっていきますが、便利な反面、インターネット上には匿名で他人を誹謗中傷する投稿や、差別を助長するような内容の記事もあります。これらは差別や偏見につながる極めて悪質な人権侵害です。

差別意識の解消に向けて

昨年「部落差別解消の推進に関する法律」が施行されました。この中には現在も部落差別が存在することが記され、部落差別の解消に向けて地域の実情に応じた施策の実施に努めることなどが述べられています。「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消

法」も施行されました。法律の趣旨を理解し、差別のない社会を築いていくことが求められます。

自分の事として

では差別や偏見はどのようなすればなくなるのでしょうか。法律を作るなどして規制をしていけばなくなるのでしょうか。そうではありません。一人ひとりが正しい知識を得て、人権を守るための適切な行動をとっていくことが最も大切なことです。

人権問題は自分には関係がないものだと思っていないか。人権侵害をしない、させないためにも、日頃から人権問題に関心を持つていくことが重要です。本市では、市民が安心して過ごせる明るい地域社会をめざして人権教育、人権啓発の推進に努めています。誰もが生まれながらに持っている大切な人権を全ての人々が尊重していくことにより、暮らしやすい社会、温もりのある社会になっていくのではないのでしょうか。

welcome to library

本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)
休館日 月曜日
問い合わせ 藤岡市立図書館 ☎②1669

わたくしたちの旅のかたち



著者▷兼高かおる・曾野綾子
異文化にふれる喜び、楽しい出会い。日本人女性の先駆けとして長年にわたり世界を旅してきた二人の抱腹絶倒のエピソードが満載。

孤独という名の生き方



著者▷家田荘子
孤独の中から生きる力が満ちてくる! 「孤独」というものを怖がらず、逃げたり後回しにしたりせずに、自分を見つめ直してみませんか。

江の島ねこもり食堂



著者▷名取佐和子
江の島に「ねこもりさん」と呼ばれる女たちがいた。それは島のネコの世話をするという、とある食堂の隠れた仕事。そこで起こった百年目の奇跡。